
12 帯状疱疹後神経痛に対する全身性 交流磁気治療の有効性について

○日下 史章（日下医院磁気医学・物理療法研
究所）

山本 竜隆（老人保健施設・みくりや園、
谷クリニック）

〔目的〕免疫力の低下した高齢者に比較的多く見られる帯状疱疹は、皮疹治療後に時に難治性の帯状疱疹後神経痛（PHN）に移行する。長期間持続する頑固な疼痛はやがて全身の内臓機能を衰弱させ、老後の社会生活の質（QOL）を著しく侵害する。この度、我々はPHN 28症例に対し、より速やかな鎮痛効果と全身状態の回復を期待し全身性交流磁気治療を試みた。

〔方法〕治療装置は創健（株）にて医療用に開発された交流磁気治療器（80mT B-MAX）19台で構成される全身性治療用ベットを用いた。治療は原則として1日1回、30分間施行し、副作用が見られなければ症状改善まで継続した。

〔成績〕PHN 28例中、著効：3例（11%）、有効：18例（64%）、やや有効：2例（7%）、無効：5例（18%）。有効以上：75%、有効以下25%であった。特に治療による副作用及び増悪例は認められなかった。

〔結論〕全身性交流磁気治療は難治性PHNに対して疼痛、皮膚知覚異常の改善に有効である。また磁気刺激は低下した免疫能や内臓機能を賦活するため衰弱した高齢者の全身状態の回復に特に有効であった。